

くまびょう

82号

NEWS

くまびょう
NEWS

2004年
4月1日



【発行所】

国立病院機構熊本医療センター
(前 国立熊本病院)

〒860-0008
熊本市二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501代
FAX (096) 325-2519

独立行政法人としての発足にあたって



国立病院機構
熊本医療センター
院長
宮崎 久義

日頃より病院運営におきまして多大の御指導と御支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、既に御案内申し上げていましたが、この4月1日をもって国立病院・療養所154施設（いわゆるナショナルセンターといわれる国立高度専門医療センター、ハンセン病療養所を除く）

は独立行政法人国立病院機構に移行しました。これに伴い病院名も変更され、国立熊本病院は独立行政法人国立病院機構熊本医療センターとなります。また附属

看護学校は独立行政法人国立病院機構熊本医療センター附属看護学校と、いずれも非常に長い名称になりました。

職員の身分は公務員型で公務員の倫理規程が準用されますが、国家公務員法の世界から労働基準法の世界へと移行します。会計は官庁会計から企業会計型に、変わります。それでは医療の現場で何がおこるかと考えますと、大きな変わりはありません。これまで私共の病院が取り組んでまいりました下記に示します病院の基本理念を大切に、良質で安全な医療を提供し、地域の医療機関との機能分担と連携を更に促進し、教育・研修、臨床研究、国際医療協力を推進してまいりたいと存じます。

今後とも御指導のほどよろしくお願い申し上げます。

基本理念

国立病院機構熊本医療センターは

- 1、最新の知識と医療技術をもって良質で安全な医療を提供します
- 2、人権を尊重し、愛と礼節のある医療の実践を目指します
- 3、教育・研修・研究を推進し、医学・医療の発展に寄与します
- 4、国際医療協力を通して世界人類の健康に貢献します
- 5、健全経営に努め、医療環境の向上を図ります

病院名が変わります 国立熊本病院→国立病院機構熊本医療センター

電話番号、FAX番号、院内への連絡先に変更はありません。

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

国立病院機構 熊本医療センター ホームページアドレス <http://www.hosp.go.jp/~knh/>

平成15年度

第2回 開放型病院連絡会(通算第16回)開催される



豊田委員長のご挨拶

この4月からの独立行政法人化に伴い組織も名称も変更になりますので、国立熊本病院としては最後の開放型病院連絡会が平成16年2月23日(月)に国立熊本病院地域医療研修センターにて開催されました。

午後7時より国立熊本病院宮崎院長の挨拶に続き、国立熊本病院開放型病院運営協議会委員長の熊本市医師会長豊田大徳先生よりご挨拶を頂きました。豊田先生はこの度、市医師会長を勇退されるとのことで、運営協議会委員長としてのご挨拶を頂くのも今回が最後になりました。豊田先生には長年、運営協議会委員長として国立熊本病院の病診連携にご理解、ご指導頂きました事を紙面を借りて深く感謝申し上げます。

全体会議は運営協議会委員で熊本市医師会理事尾崎紘先生と池井が進行を担当し、まず、症例呈示として外科の山下医長が「特発性食道破裂の1例」、心臓血管外科の森山医師が「高齢者への人工心肺を使わない冠動脈バイパス術」の症例をビデオを用いて呈示しました。ついで総合討論では医事課長が「検査予約ファッ

クス送信表兼診療情報提供書」の使用方法のご案内を行いました。自由討論に移り、フロアから歯科の田中弥興先生、外科の中村弘先生より国立熊本病院開放型病院に対する要望等を述べて頂きました。

最後にメインテーマの特別講演として厚生労働省健康局国立病院部医療指導課長補佐の佐々木昌弘先生より「診療報酬改訂の方向性」についてご講演頂きました。先生は診療報酬のこれまでの改訂の歴史から本年4月の新改訂について、分厚い資料を用いて説明され、これらを元に診療報酬が今後どの様に改訂されていくかの方向性を示されました。講演後、会場の開放型病院登録医の先生方とホットなディスカッションが繰り広げられました。

今回も登録医の先生方の参加が139名と、これまでで最も多くご出席を頂きました。ご参加頂き誠にありがとうございました。今後さらに病診・病病連携を充実するよう努力する所存です。よろしくご指導頂きますようお願い致します。(副院長 池井 聡)



熊本市歯科医師会田中理事の発表

■ 原稿を募集致します ■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。

送付先 〒860-0008 熊本市二の丸 1-5

国立病院機構 熊本医療センター 『くまびょう NEWS』 編集室まで



国立熊本病院へ感謝

寺尾病院

医師 一二三 篤子



日頃から池井副院長、河野先生をはじめ国立熊本病院の先生方、スタッフの皆様には大変お世話になっております。私が勤務している寺尾病院は、熊本市(旧北部町)に位置していますが、病院のすぐ前の小道が鹿本郡植木町との境界であり、受診される患者さんは植木町とその他の地域(熊本市、鹿本、鹿央、西合志、泗水町等)が半々という比率です。当院は一般病棟、療養病棟、介護療養病棟と計130床を有し、外来は外科、整形外科、耳鼻科、内科、皮膚科の診療を“かかりつけ医”の一面を大事にしながら

行っています。

国立熊本病院には、手術適応のある患者さんをはじめ、さらに専門的な精査加療を必要とする患者さんをお願いすることが多く、休日や夜間も救命救急センターには急患をいつも快く受け入れていただき本当に感謝しています。またすぐに患者さんの経過報告があり、退院時には詳しいサマリーをいただくと自分の診療について反省することや最新の知識を教えてもらうことが多く、あらためて日々勉強しなければと感じております。最近では患者さんの高齢化や様々な合併症を持つ患者さんの増加で、診療されるスタッフの御苦労は大変なことだろうと推察します。精神的問題のある患者さんも精神科医がしっかりサポートして下さって身体的疾患の治療ができるということをお願いしたこともありました。

国立熊本病院は、ほとんどすべての診療科を持ち、各科のスペシャリストが揃い、なおかつチームワーク良く動いている病院であり、安心して患者さんを紹介できる、頼りがいのある病院であります。

いつもお世話になってばかりで申し訳ない限りですが、病状は安定しているがもう少し療養が必要というような患者さんは私共、できるだけお引き受けたいと考えていますので今後共よろしく願います。

最後に、国立熊本病院が地域医療の支援を含め臨床面、研究面において国際的にも国内的にもますます発展されることを祈念します。

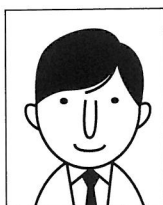
国立病院機構熊本医療センター開放型病院登録医証の発行について

登録医証につきましては、共同指導の際に名札としてご利用いただけるほか、外来駐車場の係員に提示していただければ、フリーで入庫できますので好評です。

発行をご希望の先生は、事務部庶務課庶務係(TEL 096-353-6501 内線390)までお申し込み下さいますようご案内いたします。

なお、写真は時間内であれば院内で撮影できますし、縦4cm×横3cmで顔全体が写っているものをお持ち頂いても結構です。

国立病院機構熊本医療センター開放型病院登録医証



熊本市医師会
熊本 太郎

平成16年1月1日交付
国立病院機構熊本医療センター

1. 国立病院機構熊本医療センターで診療を行う場合は、この証を持参し名札として着用下さい。
2. 駐車場を利用される場合は、この証を駐車場入口で提示して下さい。
3. この証の記載事項に変更があったときは速やかに届け出て下さい。
4. この証を紛失又は破損したときは、速やかに再交付の手続きを行って下さい。
5. この証の有効期限は3年間と致します。

小児救急について



小児科部長
高木 一孝

小さな子どもが突然熱を出し、真っ赤な顔をしてきつがる様子にどの親も心配でうろたえるものです。特に夜間の場合は不安がつり、急いで医療機関に駆けこむのが親の心理と思います。実際に救急外来を訪れる子どもで最も多いのが発熱を主訴とした受診です。原因はウイルス感染による呼吸器感染症や消化器感染症などが大部分で、大人の場合だと我慢し朝まで待つて受診となる場所かもしれません。

小児の救急をみた場合、発熱に限らず最も大事な点は全身状態をとらえることです。特に言葉をしゃべれない乳幼児では全身状態（表情、顔色、動き、機嫌、活気、ミルクの飲み具合など）を把握することが大切です。熱があっても待合室を動き回ったり、笑顔や活気がある場合はまず重症疾患は少ないと考えられます。一方、注意を要するのは①意識障害（もうろう、混濁）、けいれん、呼吸困難、チアノーゼ、顔面蒼白、ぐったり、高度の脱水（ツルゴールの低下など）、強い疼痛（頭痛、腹痛など）などの随伴症状が見られる。②5日以上発熱、40℃以上の発熱。③3ヶ月未満の乳児。④基礎疾患（精神運動発達遅滞、心疾患など）を有する場合があります。重症の可能性が高く、入院して迅速適切な検査・治療が必要となります。特に幼若乳児では典型的な症状を示さないことも多く、化膿性髄膜炎、中耳炎、尿路感染症などを見落とさないことが重要です。

救急車で受診する疾患として最も多いのは、けいれん性疾患です（右図）。けいれんの原因としては熱性けいれんが圧倒的に多く、幸いに来院時にはすでにおさまっていることが大部分です。小児の7～8%が熱性けいれんを経験すると言われますので小児科では比較的ポピュラーな疾患ともいえます。約2/3の子どもは1回だけの発作で終わり一般的な予後は良好です。一方、30分以上あるいは断続的に続くけいれん重積はてんかんや急性脳炎、髄膜炎、脳症に多くみられます。

その他、熱性けいれん、代謝障害（低血糖、低Na血症、高Na血症、低Ca血症、先天代謝異常症）、脳血管障害（奇形、もやもや病）などが原因となりますが、成人と異なり脳血管障害（脳梗塞、脳出血）や頭部外傷、脳腫瘍などは通常まれです。けいれんをみた場合は、まず熱性けいれんか無熱性けいれんかを見極め、次に熱性けいれんの場合、中枢神経系の感染症がないかを疑い診断を進めます。重積状態に対しては酸素投与をおこない呼吸状態を安定させ血管確保の上、ジアゼパム静注（0.3mg/kg、最大量 5mg、乳幼児）によるけいれんの抑制を優先させます。

小児の腹痛は年少児では腸重積症を、年長児では急性虫垂炎を否定することから始めます。子どもは症状の進行が速く消化管穿孔やショック、脱水なども起こしやすいため、初期対応が大切です。腹痛（啼泣、不機嫌）に加え、①局所の症状（圧痛、腹壁強直、腫瘤）、②口側の症状（嘔吐）、③肛門側の症状（血便）が出現する。これら3症状のすべてが認められない場合青信号、1症状の場合は黄色信号、2症状以上では赤信号と考えると腹痛を診る場合の参考になります。

当科では次の場合休日時間外を問わず小児科医が診るようにしています。それ以外の場合も当直医師の判断により、必ず小児科医へ連絡がつき対応できる体制で臨んでいます。

- ①救急車で搬入された患者様
- ②紹介により受診された患者様
- ③けいれんで受診された患者様（救急車搬入の如何にかかわらない）
- ④1歳未満の患者様

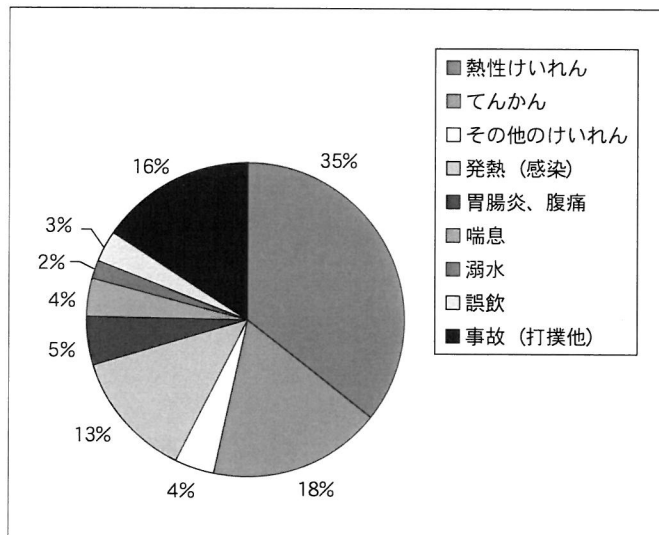


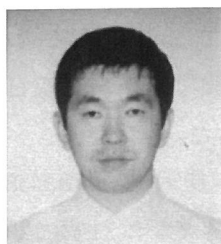
図. 平成15年 1月～12月の小児の救急車搬入入院例 (101例)

2004年
診療科紹介(7)
心臓血管センター(1)
循環器科



宮尾 雄治

循環器疾患一般、
カテーテルインターベンション
日本内科学会認定医
日本内科学会指導医
日本循環器学会専門医



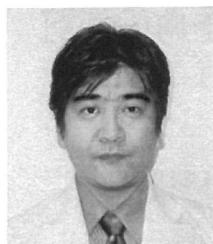
梶原 一郎

循環器疾患一般、
カテーテルインターベンション



藤本 和輝

循環器疾患一般、
カテーテルインターベンション
血管新生療法
日本内科学会専門医
日本内科学会指導医
日本循環器学会専門医
日本心臓カテーテルインターベンション学会指導医
日本心臓カテーテル治療学会指導医
ICD



高添 啓二

循環器疾患一般、
カテーテルインターベンション



大庭 圭介

循環器疾患一般、
カテーテルインターベンション

特 色

当科では救命救急医療に特に力を入れています。急性心筋梗塞、急性心不全、ショック、心肺停止などの重症例に対しても、24時間365日対応できる体制にあります。また、平成12年2月からモバイルCCUが24時間運行可能となりました。心臓血管センターは、「断らない医療」をモットーに救命救急医療、病診連携に積極的に取り組んでいます。また、循環器科と心臓血管外科は、心臓血管センターとして共同で診療しています。手術の検討は両者で行い、緊急手術にも迅速に対応しています。

さらに、従来の循環器科の治療の他に、血管新生療法にも取り組み、現在までに3例施行し良好な結果を得ています。

- 日本内科学会教育病院
- 日本循環器学会研修施設
- 日本心臓カテーテルインターベンション学会研修関連施設



実 績

平成15年(1~12月)

入院患者数	1,004名
平均在院日数	14.8日
心臓カテーテル検査	951件
経皮的冠動脈形成術	173件
経皮的血管形成術	13件
ペースメーカー植え込み術	50件
血管新生療法	2件

研究実績

- J-WIND Trial (Japan Working Groups of Acute Myocardial Infarction for the Reduction of Necrotic Damage)
(厚生労働省21世紀型医療開拓推進事業)
- J-CAD Study (Japanese Coronary Artery Disease Study) (日本心臓財団)
- 平成13年度循環器病研究委託(13公-1)
再生医療技術を用いた循環器疾患に対する組織および血管新生に関する研究
- 平成13年度循環器病研究委託(13公-4)
スタチンの多面的薬理作用に関する研究
- 平成14年度循環器病研究委託(14公-1)
循環器疾患の予防に向けての炎症性反応指標の応用
- 平成15年度循環器病研究委託(15公-1)
循環器疾患における抗血栓療法の問題点と対策
- 平成15年度国立病院・療養所共同基盤研究
自己骨髄および末梢血単核球移植による末梢性血管疾患の血管新生治療

最近のトピックス

食道癌に対する鏡視下手術の検討



乳腺胸部外科医長
山下 眞一

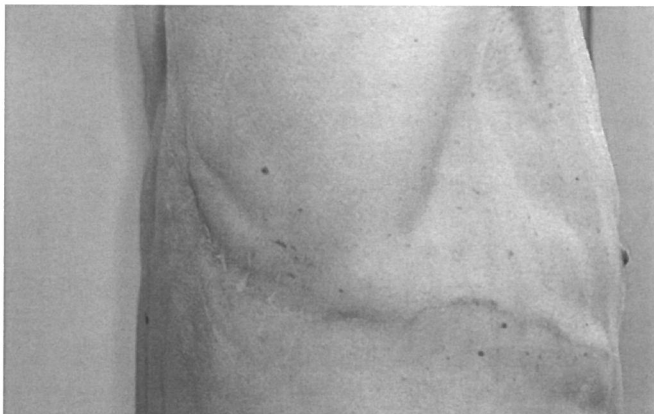
<はじめに>

当院では食道癌に対しても胸腔鏡および腹腔鏡を用いた鏡視下食道亜全摘術を行っています。適応は 1. 食道病変の深達度が T1b (SM) ~ T3 (Ad) すなわち隣接臓器浸潤が無いもの 2. 片肺換気が可能なもの 3. 高度な胸膜癒着が無いもの、としています。

今回当院で行われている胸腔鏡補助下食道癌手術に対して検討を行いましたので報告します。

<対象>

1997年1月より2004年3月までに当院で行われた胸腔鏡補助下食道亜全摘術14例（1例はコンバート）で、性別は男性11例、女性3例で平均年齢は59歳。同時期の通常開胸食道亜全摘9例をコントロールとしました。検討した項目は手術時間、出血量、郭清リンパ節数、人工呼吸管理日数、胸腔ドレーン留置日数、術後在院期間です。生存期間についてはstage I のみを対象に検討を行いました。



通常開胸の創

<結果>

胸腔鏡および腹腔鏡を併用した症例は9例、胸腔鏡のみ使用したのは5例でした。病理病期はstage 0は1例、stage II 7例、stage III 4例、stage IV 2例、stage V 1例でした。統計学的に有意差を認めた項目は、出血量、胸腔ドレーン留置期間、人工呼吸管理日数および術後在院日数で鏡視下手術、通常手術で各々中央値は出血量 230mlと849ml ($p=0.001$)、胸腔ドレーン留置期間は3日に対し6日 ($p=0.0085$)、人工呼吸管理日数は0日に対し3日 ($p=0.0001$)、術後在院日数は23日に対し49日 ($p=0.021$) でした。

手術時間は鏡視下手術 490 ± 102 分、通常手術 478 ± 38 分 ($p=0.6707$)、郭清リンパ節数は各々 35 ± 21 個、 22 ± 6.7 個 ($p=0.1568$) で有意差を認めませんでした。鏡視下手術での合併症は1例目に反回神経麻痺を認めた以外は重篤なものは認めませんでした。予後に関してはstage I では通常手術と鏡視下手術で有意差を認めておりません。

<考察と結語>

これまで食道癌の手術といえば開胸開腹頸部郭清を伴う大手術で合併症が多く周術期管理が大変であるというイメージがありましたが、胸腔鏡および腹腔鏡を用いた食道亜全摘術は合併症も少なく低侵襲で術後の集中管理も不要であると思われました。(本手術は熊本県内では当院でのみ行われております。)



胸腔鏡の創

研修のご案内

第181回 初期治療講座（会員制）

〔日本医師会生涯教育講座5単位認定〕

日時▶平成16年4月10日（土）15：00～18：00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

救急蘇生、ショック

座長 熊本大学医学部附属病院中央手術部助教授 牛島 一男

1. 最近の救急蘇生法 国立病院機構熊本医療センターICU室長 瀧 賢一郎
2. 救命救急センターのショック症例 国立病院機構熊本医療センター救命救急センター部長 高橋 毅
3. 心停止シミュレーションへのACLS実習 国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長 江崎 公明

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費20,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は会費5,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線263 096-353-3515(直通)

第33回 三木会（無料）

（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

日時▶平成16年4月15日（木）19：00～20：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 糖尿病の管理 国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科医長 小堀 祥三
- なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科医長 小堀 祥三・東 輝一郎 TEL 096-353-6501(代表) 内線796

第63回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

日時▶平成16年4月19日（月）19：00～20：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 呼吸器内科による胸部X線写真供覧 国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内科医長 島田 達也
2. 持ち込み症例の検討
3. 症例呈示「著名な高インスリン血症を呈し、糖尿病を発症したNASH(非アルコール性脂肪性肝炎)の1例」
国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科医長 小堀 祥三
4. ミニレクチャー「臓器移植コーディネートの現状と問題点」
国立病院機構熊本医療センター救命救急センター部長 高橋 毅
5. その他

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科医長(臨床研究部長) 河野 文夫 TEL 096-353-6501(代表) FAX 096-325-2519

第74回 総合症例検討会（CPC）

〔日本医師会生涯教育講座5単位認定〕

日時▶平成16年4月28日（水）19：00～20：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

テーマ：肺塞栓症

（症例 67歳 男性／主訴 呼吸苦）

臨床担当) 国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科医長 藤本 和輝

病理担当) 国立病院機構熊本医療センター臨床研究部臨床病理室長 村山 寿彦

「平成15年7月に入ったころから息切れを自覚するようになっていた。平成15年7月10日午前8時頃、歩行時に急に呼吸困難感が出現、救急外来を受診した。胸部造影CTにて右肺動脈主幹部に血栓を認め、肺塞栓症の診断で、ヘパリン、ウロキナーゼによる血栓溶解療法を開始した。7月11日心エコーにて下大静脈から右房にかけて血栓を確認。7月12日夕食時ギャジアップ後急激に血圧低下、胸内苦悶感を訴え、チアノーゼが進行した。」

* 臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー（解説）の前に、少し馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。どなたもお気軽に御参加下さい。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線263 096-353-3515(直通)

平成16年 研修日程表 4月

国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

4月	研修ホール	会議室、図書室	ほか
1日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
2日(金)			8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 8:00 消化器病研究会 C 17~18 救急部カンファレンス C
5日(月)		17:00~18:00 病理細胞診検討会(図)	8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
6日(火)	18:30~20:00 病薬連携研修会	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
7日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
8日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
9日(金)			8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 8:00 消化器病研究会 C 17~18 救急部カンファレンス C
10日(土)	15:00~18:00 第181回 初期治療講座《会員制》【日本医師会生涯教育講座5単位認定】 座長 熊本大学医学部附属病院中央手術部助教授 牛島 一男 「救急蘇生、ショック」 1. 最近の救急蘇生法 国立病院機構熊本医療センターICU室長 瀧 賢一郎 2. 救命救急センターのショック症例 国立病院機構熊本医療センター救命救急センター部長 高橋 毅 3. 心停止シミュレーションへのACLS実習 国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長 江崎 公明 ほか		
12日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
13日(火)	18:30~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C 19~21 泌・放射線科合同ウログラム C
14日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
15日(木)	19:00~20:30 第33回 三木会 (糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会) 【日本医師会生涯教育講座3単位認定】	19:30~21:00 有病者歯科医療研究会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
16日(金)			8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 8:00 消化器病研究会 C 17~18 救急部カンファレンス C
19日(月)	19:00~20:30 第63回 月曜会(内科症例検討会) 【日本医師会生涯教育講座3単位認定】	17:00~18:00 病理細胞診検討会(図)	8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
20日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
21日(水)	13:00~18:00 第15回 医療マネジメント学会クリティカルパス実践セミナー〔1日目〕 18:00~19:30 第32回 国立病院機構熊本医療センタークリティカルパス研究会(公開)		17:00 消化器疾患カンファレンス C
22日(木)	8:50~14:30 第15回 医療マネジメント学会クリティカルパス実践セミナー〔2日目〕 18:30~21:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会		7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
23日(金)			8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 8:00 消化器病研究会 C 17~18 救急部カンファレンス C
24日(土)	13:30~17:00 第60回 ナースのための救急蘇生法講座《会費制》 講師 国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長 江崎 公明 ほか		
26日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
27日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図) 19:00~21:00 小児科火曜会	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
28日(水)	19:00~20:30 第74回 総合症例検討会(CPC) 【日本医師会生涯教育講座5単位認定】 「肺塞栓症」	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
30日(金)			8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 8:00 消化器病研究会 C 17~18 救急部カンファレンス C

(図) 図書室 C 病院本館2階カンファレンス 手 手術室控室 臨 臨床研究部会議室 別6 別6病棟 外来 小児科外来
 問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター
 TEL 096-353-6501(代)内線263 096-353-3515(直通)